

2. 高年齢母親の大学生の親子関係・生活状況

母子保健研究部	加藤 忠明・堀口 貞夫
	水野 清子
調査研究企画部	網野 武博
和泉短期大学	北原 歌子・山崎 森
女子美術短期大学	伊志嶺美津子
第一保育短期大学	松本 紀子

要約： 14カ所の大学、短期大学等の学生2743名（女子2111名、男子632名）を対象にして、「親と子の絆」に関する質問紙調査を行い、高齢出産が及ぼす長期的な影響の有無を調べた。母親と30歳以上年齢差のある学生は女子21.7%、男子20.3%、35歳以上は女子3.2%、男子3.3%であり、人口動態統計の出生割合とほぼ同率であった。30歳以上年齢差のある親子は、大都市に住み、祖父母と同居していない割合が多く、祖父母との関係が良好であると回答した割合は少なかった。年齢差が大きい場合、女子学生は母親を厳しいと思う割合が少なく、男子学生は父親を厳しいと思うが少なく、自分の生き方に関して悩んでいる割合は多かった。しかし、大学生の親子関係、また、健康・食生活に関して、親子の年齢差と大きく関連する項目は、今回の調査では少なかった。育児や子育てに関して、また、高齢の親をもつ子どもに対して、親が高齢だからといって特に不安を与えない配慮が大切である。

見出し語： 高年齢の母親、大学生の親子関係、家族関係、生活状況

Parent-Child Relationships and Life Conditions:
College Students and Aged Mothers

Tadaaki KATO, Sadao Horiguchi, Kiyoko Mizuno, Takehiro AMINO,
Utako Kitahara, Shigeru Yamasaki, Mitsuko Ishimine, and Michiko Matsumoto

Summary: A questionnaire survey was conducted about parent-child bonds in order to analyze the long term effects of childbirth at an advanced age on the aging mother. The subjects were 2111 female and 632 male college students. The percentages of students whose mothers were at least 30 years older than themselves were 21.7% (female) and 20.3% (male). This subsample responded that their parents were less strict, and that they were more concerned about their own way of life, compared with students with less of an age gap with their mothers. Few items were related between the parent-child age gap and their relationship, health, dietary life, etc. It seems that concerning child rearing and in relation to their mothers the children of aged mothers need not be concerned.

Key Words: aging, parent-child relationship, college student, family relationship, and life conditions

I 研究目的

最近女性の平均初婚年齢が高くなるにつれて、母親の出産年齢の高齢化がみられる。しかし、高齢で出産後の育児を取り巻く諸問題に関しては、必ずしも十分な研究がなされているとはいえない。そこで昨年度は、高年齢の母親の乳幼児の環境や発達状況、親子関係等を分析した¹⁾。今年度は、高齢出産が及ぼす長期的な影響の有無を調べるため、高齢出産で生まれた子ども達が大学生になった時の親子関係や生活状況等に関して、大学生の立場から分析を行った。

II 対象と方法

東京都、神奈川県、福岡県にある14カ所の大学、短期大学等の学生2743名(女子2111名、男子632名)を対象にして、1993年7～12月、「親と子の絆」に関する質問紙調査²⁾を行い、全員より回答を得た。女子は保育、幼児教育、福祉、看護、美術専攻の学生が、男子は経済、商、文、教育、工学部の学生が多かった。その中で、学生とその母親との年齢差が30歳以上あった女子学生459名、男子学生128名、及びそれらの対照群として各大学等より同数の29歳以下の女子459名、男子128名を抽出し、合計女子918名、男子256名に関して分析を行った。

III 結果

1、家庭の背景、家族関係

分析対象となった学生の兄弟数や出生順位は、1975年人口動態統計の人口構成と³⁾、また、祖父母との同居の有無は、国勢調査と⁴⁾ほぼ同様の割合であった。

学生の親との関係では、「親の愛情を受けられなかった」、「もっと大事にしてほしかった」とよく思う学生は1～2%と少なく、多くの学生の親子関係は良好であった。父や母を「嫌い」、「しつげが厳しい」、「過保護」、「放任主義」と回答した学生は各々10%前後であった。家族(父、母、兄弟、祖父母、家族全員)との関係は、「まあ良好」も含めると、86%以上の学生が「良好である」と回答していた。これらの結果は以前の調査^{2, 5)}とほぼ同様の結果であった。

2、親子の年齢差と学生の出生順位

大学生である子どもと、その母親との年齢差(5歳区

分)と、学生の出生順位との関連を男女別に表1に示す。年齢差が17～19歳である学生は女子4名、男子3名、40～42歳である学生は女子8名、男子4名のみであったので、各々年齢差17～24歳、35～42歳の中に含めて分析した。年齢差が16歳以下、または43歳以上の親子はいなかった。男女とも母が高齢になるに従い出生順位は遅くなる割合が高くなっていった(女子 $X^2=292.2>22.5$ 、男子 $X^2=72.1>22.5$ 、共に $p<0.001$)。

年齢差が29歳以下の親子は、一部、分析から除外したため、人数が少なくなったが、全対象者の中で30歳以上年齢差のある親子は女子21.7%、男子20.3%、35歳以上は女子3.2%、男子3.3%であり、1975年人口動態統計³⁾の各々の出生割合20.6%、3.7%とほぼ同率であった。

3、親子の年齢差と母親の職業の有無

学生とその母親の年齢差と、母親の職業の有無との関連を男女別、出生順位別に表2に示す。男女とも年齢差が大きい場合、第1子では有職婦人の割合が少なかったが(男子のみ $X^2=17.3>16.3$ 、 $p<0.001$)、第2子以降では職業の有無と有意な関連は認められなかった。昨年の乳幼児期の調査では¹⁾、年齢差が大きいほど母親は有職である割合が多かったため、今回は逆の傾向が認められた。

4、親子の年齢差と学生の居住地

男女とも、30歳以上年齢差のある親子は、29歳以下の親子に比べて、人口100万人以上の大都市に住む割合(女子は前者27.3%、後者21.3%、男子は前者30.4%、後者18.3%)が多く(男子のみ $X^2=4.7>3.8$ 、 $p<0.05$)、祖父母と同居していない割合(女子は前者78.1%、後者71.9%、男子は前者82.0%、後者73.4%)が多かった(女子のみ $X^2=4.7>3.8$ 、 $p<0.05$)。しかし、主に育った地方(都道府県)別に、地域(農山村、住宅・商・工業地域)別に、また、現在住んでいる場所(自宅、寮、アパート等)別に年齢差との関連は認められなかった。

5、親子の年齢差と学生の健康・食生活

親子の年齢差と、現在における学生の不定愁訴の有無やその数、食事時刻の規則性、食欲の善し悪し、一緒に食べる人の有無、食べる場所の違い、偏食の有無等との関連性は見られなかった。男女とも学生が食事を残した時、35歳以上年齢差がある母親の態度は、34歳以下

の母親に比べて、「食べるように勧める」割合（女子は前者23.1%、後者36.8%、男子は前者28.6%、後者37.4%）が少なく（女子のみ $X^2=4.9>3.8$ 、 $p<0.05$ ）、「勧めるが残しても何も云わない」割合や「放っておく」割合がやや多かったが、必ずしも有意差は認められなかった。

6. 親子の年齢差と学生の現在・将来の生き方

親子の年齢差と、学生の現在の悩みとの関連を表3に示す。男女とも、「就職のこと」、「自分の将来のこと」、「自分の生き方」に関して悩んでいる割合が比較的高かった。その中で親と30歳以上年齢差のある学生は、29歳以下の学生に比べて、「自分の生き方」に関して悩んでいる割合が高かった。女子は「その他の悩み（自分の容姿のこと、異性とのこと等）」と比べて（ $X^2=4.9>3.8$ 、 $p<0.05$ ）、男子は「就職」や「将来」の悩みと比べて（ $X^2=4.2>3.8$ 、 $p<0.05$ ）有意に高かった。

親子の年齢差と、学生の現在の「生活満足度」、「一番してみたいこと」、「将来の生き方」、「仕事か家庭か」、「自分自身が子どもをもった場合の期待感」等への回答と関連は認められなかった。

7. 親子の年齢差と学生の親子関係

親子の年齢差と、父母の「しつけは厳しかったか」どうかの関連性を表4に示す。親子の年齢差が大きい場合、女子学生は母親を「厳しい」と思う割合が少なく（ $X^2=11.1>7.8$ 、 $p<0.05$ ）、男子学生は父親を「厳しい」と思うが少なかった（ $X^2=11.5>11.3$ 、 $p<0.01$ ）。この傾向は出生順位と無関係に認められたが、出生順位別にみると人数が少なくなるため、有意差は認められなかった。

親子の年齢差と、父母が「過保護」、「放任主義」、「嫌い」、「父母からもっとよく育ててほしかった」、「親の愛情を受けられなかった」、「もっと大事にしてほしかった」、また、「親と子の絆を大切にしたい」、「それはどのようなつながりだと思うか」等への回答と関連性は見られなかった。

8. 親子の年齢差と学生の家族関係

親子の年齢差と、祖父母との関係の良好度との関連を表5に示す。男女とも、親と30歳以上年齢差のある学生は、29歳以下の学生に比べて、祖父母との関係が良好であると回答した割合は少ない傾向が認められた（男子のみ $X^2=4.4>3.8$ 、 $p<0.05$ ）。親子の年齢差と、

父、母、兄弟、また、家族全員との関係の良好度との関連は認められなかった。

IV 考察

前回調査で¹⁾、乳幼児の環境や発達状況等は、父親との関連より母親との関連の方が大きく、また、父と母はほぼ同様の傾向が認められたので、今回の調査では母親との年齢差のみに関して分析を行った。

母親との年齢差が何歳以上から高齢の母親と考えるかはいろいろな考え方があるが、対象となった現在の大学生で35歳以上年上の母親をもつ割合は3%くらいと少なく、これのみでは分析可能な対象数が限られてしまう。そこで、今回は30歳以上年上の母親をもつ大学生に関して分析を試みた。今回の対象学生の結果は、人口動態統計等と比較して、ほぼ全国的な調査結果と同様と考えられる。

高年初産婦では、妊娠・出産に関して種々の危険性が指摘され^{6,7)}、また、母親の加齢とともに母乳栄養率が低下したり、乳児の運動発達がやや遅めになる傾向がみられた¹⁾。しかし、年齢とともに人生経験や知識は豊富になるためか、育てやすい乳児や落ち着いた子どもをもつ高齢の母親が比較的多かった¹⁾。その意味では育児をする上で母親が高齢になることは、必ずしもマイナス面だけではないと考えられる。高齢の母親をもつ大学生の親子関係や生活状況に関して、余り多くはなかったが、以下のような特徴が見いだされた。

前回調査で乳幼児をもつ母親は高齢といっても30歳代～40歳代前半であり、高学歴で仕事をもつ婦人が多かった。しかし、今回の大学生を対象にした調査では、その場合、母親の年齢は50歳以上になっていた。そうならば高学歴の婦人は少なく、年齢とともに仕事をもつ割合が減少していた結果は当然と考えられる。ことに第一子を高齢で出産した場合は、ひとりっ子であることが多く、家庭で子どもにかかる経済的負担は比較的小さいため、母親が仕事をもち収入を得る必要は少なくなるのであろう。

高齢の母親の親子は、大都市に住み、祖父母とは同居していない割合が多かった。前回調査でも出産後、実家に帰らず自分の自宅のみで過ごす家族が多く、健診時に祖父母が同伴する割合が少なかった。祖父母に比べて親自身の経済的状況が良くなり、自分自身の親離れがすすみ、祖父母からの援助を余り多く受けず、生活面で祖父母から独立していることが多いための結果と考えられる。また、大学生からみれば、祖父母との年齢が大きく離れ

ている。従って、大学生と祖父母との関係が希薄になりやすく、祖父母との関係が必ずしも良好でないと回答した学生が多かったのであろう。

親子の年齢差が大きくなるほど学生は親を厳しいと思う割合が少なく、ことに同性の親に対してその傾向が強かった。学生が食事を残した時に食べるように母親が勧める割合は少なかったため、食生活に関しても同様の傾向であろう。親は高齢になるほど、放任というわけではないが、子どもの行動や態度や気持ちをありのままに受け入れる傾向が強くなると考えられる。そのことが親子関係の善し悪しに直接影響を与えているようではなかったが、親の人生経験が豊かになるための1つの利点といえるであろう。しかし、いろいろなことを受容されて育った大学生は、自分自身に責任をもたねばならないと思うようになるためか、自分の生き方に関して悩むことが多くなると考えられる。

おおむね良好である現在の大学生の親子関係、また、健康・食生活に関して、親子の年齢差と大きく関連する項目は、今回の調査では少なかった。高齢出産に関してはダウン症候群等障害児を産む可能性や各種の死亡率が高くなる可能性が多少高くなるものの、多くの場合は特に問題のない子どもが生まれ育っていく。妊娠・出産に関しては注意が必要な場合もあるが、育児や子育てに関して、また、高齢の親をもつ子どもに対して、親が高齢だからといって特に不安を与えない配慮が大切である。

参考文献

- 1) 加藤忠明、松浦賢長、他：高齢母親の乳幼児の育児。日本総合愛育研究所紀要第29集：7-14、1993。
- 2) 北原歌子、加藤忠明、他：親と子の絆—学際的アプローチ。和泉短期大学研究紀要第12号：97-124、1991。
- 3) 厚生省統計情報部：昭和50年度人口動態統計。
- 4) 総務庁統計局：平成2年国勢調査報告。
- 5) 加藤忠明、松本紀子、他：大学生の親子関係と健康。日本総合愛育研究所紀要第29集：131-134、1993。
- 6) 特集「出産年齢をめぐって」。周産期医学；21(12)、1991。
- 7) 特集「加齢と妊娠・分娩」。産婦人科の世界；42(10)、1990。

謝辞：質問紙調査に御協力いただいた和泉短期大学児童福祉科の山内常博先生、井狩芳子先生、永田陽子先生、柴本和子先生、早稲田大学体育局の中沢恵二先生、福岡教育大学幼児教育科の田中敏明先生、久留米大学文学部の原口雅浩先生、また、調査結果を集計していただいた進藤デザインオフィスの尾木まり先生に深謝いたします。

表1、出生順位

出生順位 年齢差		第1子	第2子	第3子	第4子 以後	計
女 子	17~24歳	132人	21人	1人	0人	154人
		85.7%	13.6%	0.6%	0%	100%
	25~29歳	158	124	19	3	304
		52.0	40.8	6.3	1.0	
	30~34歳	77	182	120	13	392
		19.6	46.4	30.6	3.4	
男 子	35~42歳	8	25	20	14	67
		11.9	37.3	29.9	20.9	
	合計	375人	352人	160人	30人	917人
		40.9%	38.4%	17.4%	3.3%	100%
	17~24歳	39人	8人	1人	0人	48人
		81.3%	16.7%	2.1%	0%	100%
女 子	25~29歳	42	33	4	1	80
		52.5	41.3	5.0	1.3	
	30~34歳	23	58	23	3	107
		21.5	54.2	21.5	1.8	
	35~42歳	4	7	8	2	21
		19.0	33.3	38.1	9.5	
合計	108人	106人	36人	6人	256人	
	42.2%	41.4%	14.1%	2.3%	100%	

上段：人数、 下段：%

表2、母の職業の有無

出生順位 母の職業 年齢差		第1子		第2子以後		計
		有職	無職	有職	無職	
女 子	17~24歳	94人	38人	17人	5人	154人
		61.0%	24.7%	11.0%	3.2%	100%
	25~29歳	117	41	107	39	304
		38.5	13.5	35.2	12.8	
	30~34歳	50	27	203	111	391
		12.8	6.9	51.9	28.4	
男 子	35~42歳	3	5	34	24	66
		4.5	7.6	51.5	36.4	
	合計	264人	111人	361人	179人	915人
		28.9%	12.1%	39.5%	19.6%	100%
	17~24歳	34人	5人	6人	3人	48人
		70.8%	10.4%	12.5%	6.3%	100%
女 子	25~29歳	30	11	26	12	79
		38.0	13.9	32.9	15.2	
	30~34歳	10	13	52	32	107
		9.3	12.1	48.6	29.9	
	35~42歳	1	3	9	8	21
		4.8	14.3	42.9	38.1	
合計	75人	32人	93人	55人	255人	
	29.4%	12.4%	36.5%	21.6%	100%	

上段：人数、 下段：%、 以下同様

表3、現在の悩みは

年齢差		就職	将来	生き方	その他
女 子	17~29歳	149人 33.6%	83人 18.7%	42人 9.5%	170人 38.3%
	30~42歳	154 34.4	84 18.8	61 13.6	149 33.3
男 子	17~29歳	21人 17.1%	30人 24.4%	18人 14.6%	54人 43.9%
	30~42歳	19 15.3	20 16.1	29 23.4	56 45.2

表5、祖父母との関係は

年齢差		良好	まあ良好	良くない
女 子	17~29歳	164人 38.1%	216人 50.1%	51人 11.8%
	30~42歳	130 34.3	188 49.6	61 16.1
男 子	17~29歳	64人 53.8%	44人 37.0%	11人 9.2%
	30~42歳	43 39.8	47 43.5	18 16.7

表4、父母のしつけは厳しいと思ったことがあるか

年齢差		父に対して ある ない		母に対して ある ない	
女 子	17~24歳	59人 38.6%	94人 61.4%	78人 50.7%	76人 49.3%
	25~29歳	97 32.6	201 67.4	145 47.7	159 52.3
	30~34歳	125 32.1	264 67.9	152 38.9	239 61.1
	35~42歳	21 32.3	44 67.7	23 34.3	44 65.7
	合計	302人 33.4%	603人 66.6%	398人 43.4%	518人 56.6%
男 子	17~24歳	15人 31.3%	33人 68.8%	18人 37.5%	30人 62.5%
	25~29歳	32 40.5	47 59.5	35 43.8	45 56.2
	30~34歳	23 22.1	81 77.9	33 30.8	74 69.2
	35~42歳	2 9.5	19 90.5	9 42.9	12 57.1
	合計	72人 33.4%	180人 66.6%	95人 37.1%	161人 62.9%